

家庭科

701家庭基礎

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を養う。
---------	--

レポート No	教科書ページ	レッスン	評価の3観点		
			知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C
No.1	P12～P37	家族・社会との共生 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
No.2	P38～P77	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
No.3	P78～P118	第5章 共に生き、共に支える 生活の自立 第6章 食生活をつくる 1～5	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
No.4	P119～P163	第6章 食生活をつくる 6・7 第7章 衣生活をつくる	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
No.5	P164～P183	第8章 住生活をつくる	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている

No.6	P184～P213	第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
------	-----------	---	---	---	--

力を次のとおり育成することを目指す。
解決する力を養う。

学習のポイント

○生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。
○自立の種類と内容を理解する。
○意思決定とは何かを理解し、意思決定の5段階と資源について考える。
○人口減少時代が到来していることを理解し、これからの時代をどう生きていくかを考える。

○命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。
○子どもの発達過程について理解してする。
○超高齢社会の背景を知ったうえで、高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か理解する。

○誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。
○よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。

○郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。また、世界の食文化にも関心を持ち、私たちの食生活への影響に気づく。
○人間が被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。

○生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住欲求を理解する。
○防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深める。

○自立した消費者として適切に意思決定を行う。
○生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。
○持続可能な社会の構築に向け、毎日の生活でできることを取り組むことができる。
○人生の目標設定を達成し、自分らしい生活が実現できるよう生活設計をすることができる。

家庭科

701家庭総合

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて理論的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
---------	---

レポート No	教科書ページ	レッスン	評価の3観点			学習のポイント
			知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C	
No.1	P10～19	第1章 生涯を見通す	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・青年期の課題である自立について理解を深めている。 ・自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察する。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。
No.2	P20～43	第2章 人生をつくる	・家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 ・家族・家庭と法律について理解している。 ・男女の平等と協力について理解を深めている。 ・家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭及び化社会について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。
No.3	P44～65	第3章 子どもと共に育つ 1～4	・親の役割と保育について理解を深めている。 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解を深めている。 ・子どもの遊びと文化について理解を深めている。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。	子どもの健やかな発達を支えるために、子どもとの適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・命に対する責任や、社会の一員として次世代をはぐくむ責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。

No.4	P66～93	第3章 子どもと共に育つ 5 第4章 超高齢社会を共に生きる	・子育て支援について理解を深めている。 ・高齢者を取り巻く社会の変化や課題について理解を深めている。 ・高齢期の心身の特徴について理解を深めている。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めている。	高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・超高齢社会の背景を理解する。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳にうちて理解を深める。 ・高齢期を支える社会に仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。
No.5	P94～103	第5章 共に生き、共に支える	・生涯を通して家族。家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・高齢者や障がいのある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めている。	家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、様々な人々との関わり方について問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。
No.6	P104～125	第6章 食生活をつくる 1～3	・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴について理解している。 ・食の安全と衛生など、食と人との関わりについて理解している。	主体的に食生活を営むことができるよう健康に配慮した自己と家族の食事について問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・よりよい食習慣を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身に付ける。
No.7	P126～159	第6章 食生活をつくる 4～7	・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・日本の食文化など、食と人との関わりについて理解している。 ・食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解している。	主体的に食生活を営むことができるよう健康に配慮した自己と家族の食事について問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようにするために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。 ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を理解する。 ・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。

No.8	P160～173	第7章 衣生活をつくる 1～2	・被服材料について科学的に理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適・機能的な着装について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。
No.9	P174～201	第7章 衣生活をつくる 3～6	・被服衛生について科学的に理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。 ・日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めている。 ・衣生活を取り巻く課題など、被服と人との関わりについて理科いを深めている。	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適・機能的な着装について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。
No.10	P202～227	第8章 住生活をつくる	・ライフステージの特徴や課題に着目し、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解している。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解している。 ・快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。 ・住生活を取り巻く課題など、住まいと人との関わりについて理解を深めている。	主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。
No.11	P230～251	第9章 経済生活を営む	・消費行動における意思決定について理解を深めている。 ・契約の重要性について理解を深めている。 ・消費者保護のしくみについて理解を深めている。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解している。 ・家計の構造について理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について理解を深めている。	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう、責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・生涯を通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。

No.12	P252～267	第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために、生涯を通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察する。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境や、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。
-------	----------	--------------------------------------	--	--	--	---